

## 組織評価の改善状況報告書

平成 26 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部・人文社会科学研究科長 今野 喜和人

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成25年度の改善状況を報告します。

要改善事項
「総合知」獲得カリキュラムの発展と検証プロセスの構築
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
学部の教育企画委員会内部に「総合知育成のための組織的取り組み」に関するワーキング・グループを立ち上げ、カリキュラム改革案を作成する（既に立ち上げ済み）。具体的には、既に他学科の専門領域を学習するために立てられている学部共通科目の充実化を図り（今年度後期より「人文社会科学の課題と探究Ⅰ、Ⅱ」開設）、さらに副専攻的な履修モデルを提示するなどして、他学科科目の履修を促す（別表や学部案内作成時期までに）。
改善状況
今年度後期に4学科すべての学生が履修できる「人文社会科学の課題と探究Ⅰ」を開講し、課題を発見し、調べて、口頭または文書で発表する実践と、立場・分野・背景の違う人の意見を受容することを学ぶことを目標とした。受講者は社会学科21名、言語文化学29名、法学科23名、経済学科69名で、1年生が多かったが、4年生までの学生が受講し、12班に分かれたグループワークにあたっては無作為にチームを組んで、学年や学科の違う学生が協力して話し合い、成果物を作成していけるようにした。授業での作業としては、教員インタビュー、口頭プレゼンテーション、インタビュー内容の書き起こしなどを行った。課題図書調べ方や発表のしかたについて、他学科所属の学生から刺激を受け、自分も持っている知識や考え方によってグループや授業全体にどんな貢献をすることができるのかを意識して、「総合知」について考えていくことができたのではないかとと思われる。授業の報告書を作成し、今年度の成果の周知に努める。来年度は「人文社会科学の課題と探究Ⅱ」が開講される予定である。なお、副専攻的な履修モデルは組織をあげての具体的な提示にまでは至らなかったが、今後予定されている改組計画の中で検討する。
達成年度（予定を含む）
科目開講等は25年度達成。残された課題は26年度に実施予定。

要改善事項
国際化に対応した外国語（特に英語）能力獲得
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
専門科目としては、英語による授業ができる教員採用を検討する（来年度以降の人事計画作成時まで）。また授業を新たに英語で行うことを決定した教員に来年度の研究費増額を検討する（シラバス作成時期までに）。共通科目の英語については、TOEIC得点別に、履修モデルを作成し、広報する他、教務委員会で実態を調査する（今年度末までに）。授業外では英語のみで会話するEnglish Caféを週一回開設する（10月開始）。
改善状況
4月の1年生ガイダンスにおいて、少しでも多くの英語選択科目を履修するよう強く勧めた。英語選択科目の履修状況を調査したところ、大多数の1年生が可能な限り多くの英語選択科目を履修している実態が確認できた。履修モデルの作成・広報は行わなかった。英語ができる教員の採用、および授業を英語で行うことを決定した教員へのインセンティブについては、現在改組が予定されているため、その計画策定の中でさらに検討することとした。English Caféについては週一回開設し、多くの学生が参加した。次年度も継続して開設し、さらに英語以外の言語のカフェ開設を検討する。英語授業可能な教員採用、ならびに英語授業を行う教員へのインセンティブについては、予定されている改組計画の策定の中で検討する。
達成年度（予定を含む）
今年度は、（1年生の）英語選択科目の履修状況調査の結果から判断すると、目標を十分に達成できたと考えられる。26年度も引き続き、学生の英語への関心を高める組織的取り組みを継続するとともに、新1年生の実態調査と新2年生の経過調査を行う予定である。その他の課題については平成26年度達成を目指す。

要改善事項
フィールドワークなど体験型教育の一層の充実
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
各学科別に行われているフィールドワークの実態を調査し（今年度末まで）、学部長裁量経費を利用するなどしてさらなる充実・拡大を図る。学部横断的なフィールドワークの試みができないか検討する（今年度末まで）
改善状況
社会科学では、蓄積された経験と知識を基にフィールドワーク教育を充実させている。ここでは、小グループに分かれて研究テーマを自主的に決め、地域の人・施設などの現場を訪れてインタビューや調査を行い、その結果をプレゼンテーションする。教務委員会において、学科の壁を越えたフィールドワーク（学部共通専門科目としての展開や社会科学のフィールドワーク授業を他学科にも開放するなど）を検討したが、どれも現実的ではないとの結論に達した。ただし、新設された学部共通科目「人文社会科学の課題と探究Ⅰ」や、新たに開始

された全学部生対象の学生発表会では、フィールドワーク関連のスキルを涵養する機会を提供できた。今後さらなる充実のための工夫について検討する。

達成年度（予定を含む）

平成26年度

要改善事項

女性教員・外国人教員の増大

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

男女共同参画を推進する静岡大学の「ビジョンと戦略」を重視し、女性教員が働きやすい環境作りをさらに進めるほか、公募の際に評価が同等の場合は女性の候補者を優先する選考を増やすことを検討する。外国人教員についても全学的に開始された「外国人教員採用加速システム」を利用して外国籍の教員の採用を検討する（来年度以降の人事計画作成までに）。

改善状況

評価同等の場合に女性の候補者を優先する選考を一部で行うなどして、平成26年4月採用の新任者5名のうち、3名が女性となった。「外国人教員採用加速システム」はまだ利用していないが、上記新任者の内1名は外国籍である。現在予定されている改組計画の中で、女性と外国人教員の採用についてはさらに加速させる予定である。

達成年度（予定を含む）

平成26、27年度

要改善事項

アドミッション・ポリシーの実効性を高める。

要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

アドミッション・ポリシーを学部案内や学部のホームページ等で見易いところに掲載するなどして、受験生への周知徹底を図る（今年度末までに）。

改善状況

受験生に対するアドミッション・ポリシーの周知徹底については、入試相談会、入試用パンフレット等の改善を行った。また学部案内にも見易いところに掲載し、学部案内自体を電子ブック化してホームページに掲載するため、以前よりも周知徹底が図られることとなった。

達成年度（予定を含む）

平成26年度始めまでに達成予定。

#### 要改善事項

グローバル化に対応した国際交流の一層の推進

#### 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

在学生の短期・長期留学を増大させるために、提携校の拡大、私費留学やワーキングホリデーの単位化、留学報告会の開催等の手段を講じる（今年度末まで）。また留学生との交流会やEnglish Café（その他の外国語のCaféを含む）の開設を行う（今年度秋までに）

#### 改善状況

今年度、新たにスペイン・アルカラ大学と部局間交流協定を締結した。また、カリキュラム改正を行い、各学科横断（夜間主コースを含む）の専門科目として、「海外研修Ⅰ・Ⅱ」を設けた。さらに、留学報告会を催し、ドイツ・ボン大学、スウェーデン・イエーテボリ大学に留学した邦人学生による体験談を聞く機会を得た。English Caféも開くことができた。

#### 達成年度（予定を含む）

上記「改善状況」欄記載の内容については、今年度（平成25年度）。本学部独自の留学生との交流会の開催については、次年度以降の予定。